

学ぶ楽しさ

ザ・プレミアム

堤真一×地球創世の大地

～オーストラリア大陸3000キロ～

放送日：2016年3月12日 放送時間：89分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 社会 地理

この番組の良さ



● アボリジニの文化に触れる

オーストラリアは、日本の20倍の国土であり、太古の姿を残している大地です。本番組は、俳優の堤真一氏が先住民であるアボリジニの人々と触れ合いながら3000kmを旅する紀行番組です。アボリジニの人々はウルル(エアーズロック)を神聖な場所として、太古からその文化を現代に引き継いでいます。そのアボリジニの人々と堤氏との交流から、先住民の文化を理解することの大切さを学ぶことができます。

水場などの日常生活を壁画にしたアボリジナルアート、祖先から引き継がれた乾燥地帯での食料の調達法など、映像を通して数万年前のアボリジニの祖先の英知に触れることができます。

● ロマンと冒険心を描きたてる番組

アボリジニのガイドが、ぜひ見てもらいたい場所があると、朝早く堤氏を案内します。そこは、ノーザンテリトリーの360度の平原で、見渡す限り遮るものがありません。アボリジニの祖先が数万年前から見てきた圧巻の光景に、「この地を訪れたい」という冒険心が掻き立てられます。また、地平線から昇る荘厳な朝日や、赤い大地に映えるウルル(エアーズロック)に壮大なロマンを感じます。大自然の美しい映像が印象に残る番組です。

執筆者

大分県立大分商業高等学校

教頭 森 浩三

番組活用のポイント

● 異文化理解とグローバルな視野を育成する教材として活用する

番組では、堤氏がオーストラリアの先住民アボリジニの人々の文化に触れながら3000kmを旅します。番組の様々な場面でアボリジニの文化に触れる場面があり、児童生徒の興味・関心を高めるのはもちろん、壁画でのコミュニケーションや水場の地図、乾燥地帯での生活の仕方など、数万年からの英知が脈々と現代につながっていることを感じ取れます。

番組では、砂漠地帯で生活するための貴重な栄養源として昆虫(いも虫)を生で食べるシーンがあります。そのシーンから「アボリジニの人々は他にどんな食材を食べるのか?」「どのように調理して食べるのか?」「何という名前の料理なのか?」「どのような味なのか?」「なぜそのようなものを食べるのか?」など、沸き立ってくる様々な疑問を学習問題として追及する場面を設定することで、異文化理解につながる第一歩となるでしょう。そして、異文化を知り相手を理解することで、これまでの見方や考え方の価値観を深め広げるきっかけとなります。

● オーストラリア大陸の気候や地形を映像から学ぶ

番組では堤氏が、オーストラリアの南端から中央部までの約3000kmを、大自然に身を委ね、アボリジニの人々の文化に触れながら旅をします。クーバーペディの町からアウトバックの乾燥地帯を経てウルルを目指す映像は、厳しい自然環境や広大な砂漠の様子、赤い大地にそびえる赤い巨大な岩(ウルル)の荘厳な光景が映し出され、実際にその地を訪れ自然に触れたいという好奇心を掻き立てます。地理などの科目において、気候や風土、主要な産物、人口など、映像教材としても効果的に活用できます。

ノーザンテリトリーは、北から南に広がっていて、およそ1600kmに及びます。番組では、雨季の時期に幅2kmにもなる川が発生する場所を映し出します。乾燥地帯の乾季でも川が発生する場所に沿って植物が自生していて、自然の力強さやたくましさを感じることができます。また、レッドセンターと呼ばれるエリアでは、赤土の砂漠が広がっており、オセアニアの気候の特色をよく表しています。